

私たち茂原市史仏像調査班は市内に所在する仏像仏画等の悉皆調査を目指して昨年八月より活動を開始、四月現在まですでに九社寺で一五〇点の資料を精査しました。もっとも市内の仏像仏画の総数は千体を越えると思しますので、調査はまだ端緒にいたばかりです。その成果は令和四年度中に刊行予定の『茂原市史 資料編 原始・古代・中世』等で発表されることとなりますが、ここでは予告編としてこれまでに発見された二体の仏像を紹介し

ます。先ずは三ヶ谷永興寺(天台宗の寺院)の地藏菩薩像です。像高は七五cm、榿材の一木造りです。八月の調査の最後に、暗い厨子の中から当像が現れた時の驚きはいかにかりだったでしょう。

堂々たる量塊感、彫りの深い迫力のある衣文、森厳な面立ちが当像が平安初期に遡る県内最古の木彫仏であることを物語っています。しかも、その彫法は洗練されたもので、奈良の古寺の仏像を想わせます。

歴史に詳しい方はご存知のことと思いますが、茂原市は初期庄園藻原庄が所在したことで

知られます。これは上総国司藤原黒麻呂の末孫らが、その私領を奈良興福寺に寄進して成立したものですから、この時期領家である興福寺から茂原に様々な文物がもたらされたに違いありません。当像はそうした奈良文化の一つと考えることができ



▲地藏菩薩像 (三ヶ谷永興寺所蔵)

次にご紹介するのは綱島浄法寺(天台宗の寺院)の本尊釈迦如来像です。檜材の一木造り、漆箔仕上で、像高は一七〇cmもあります。台座や光背を失い両手など後世に補われた部分も少なくありませんが、宋風の顔立ちや細い体軀等から作期は鎌倉後期と思われる



▲釈迦如来像(綱島浄法寺所蔵)

す。ちよつと妖しげな趣きすらある細面は同時期の鎌倉浄光明寺の仏像に似ています。鎌倉時代これほどの巨像は地方では郡寺クラスにしかありません。当寺には相応の威勢を持った檀那がいたのです。そこで鎌倉時代の

当地方の有力者を探すと、ほど近い長南町須田に館(岩川館跡)を構えた角田(※)氏が浮

かび上がります。

角田氏は房総の大武士団上総氏の一族で、広常が減んだ後には一族の頭領の称号「上総介」を名乗ったこともあり。当初、下総の相馬郡を本拠としたようですが、やがて上総の要衝である当地を本拠とし、他に西上総にも広大な領地を持つていました。その後、角田氏は本拠を西国に移したらしく、当地での活動は見えなくなっています。浄法寺の巨仏はその威勢の忘れ形見と言うべきものなのかも知れません。

理由なく仏像が造られることはありませぬ。市内の膨大な仏像を全て調べて、そこに秘められた歴史を明らかにすることが私たちの使命だと思っています。

○掲載されている仏像は、普段非公開になっています。

茂原市史編さん委員会  
調査執筆委員 濱名 徳順  
※角田の名は、隅田、墨田と諸説あり。

☎ 美術館・郷土資料館  
26 2 1 3 1、FAX 26 2 1 3 2

文芸コーナー

声の再会

時女 礼子

日本作詩家協会から携帯に伝言が入っていた私を探している人がいる

電話番号を聞いてあるので連絡して欲しいと

その人物は作曲家であり

私も彼を探していたので大変驚いた

三十五年ぶりの会話は止めどなく

言葉が出て来た

二人で組んで作った歌は数曲あった

全てを思い出せない程長い年月が流れていた

又一緒に組んで歌を作りたいと

彼ははつきり言った

当然私も同意した

間もなく譜面が送られて来た

時間を要さず作詩は出来上り

その歌は今ユーチューブで配信中である

◎選評 斎藤正敏  
三十五年ぶりのコンビ復活。人生何があるかわからないものですね。それにしてもお二人の継続の力。感嘆します。

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。  
●投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。  
※詩の原稿送付先(直接選評者へ) 〒297-0032 茂原市東茂原7番地 斎藤正敏宛。  
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内でお願いします。